

「勝手にくま鉄検定」第8セット目 に挑戦しましょう！

1 人吉温泉駅から湯前駅までの乗車時間は約何分ですか。

①35分 ②45分 ③55分 ④65分

2 「ポッポー館」と名付けられた蒸気機関車を模した多目的施設を併設する、くま川鉄道で唯一の行き合い（離合）がある駅は何駅ですか。

①あさぎり駅 ②東免田駅 ③公立病院前駅 ④多良木駅

3 くま川鉄道にある14の駅のうち、白と黒のコントラストが美しい格子状の壁（なまこ壁）を持つ駅は何駅ですか。

①川村駅 ②肥後西村駅 ③一武駅 ④木上駅

4 2014年（平成26年）12月に待合所が登録有形文化財に指定された相良村内の唯一の駅で、下田幸（しもだみゆき）さん（故人）という高齢の女性が名誉駅長を務めていた駅は何駅ですか。

①川村駅 ②おかどめ幸福駅 ③あさぎり駅 ④多良木駅

5 くま川鉄道にある14の駅のうち、駅構内（ホーム）に拝殿等の神社関連物が置かれている駅は全部でいくつありますか。

①2 ②3 ③4 ④5

6 くま川鉄道が現在保有する5つの車両のいずれかに見受けることができるものを以下に挙げました。しかし、無いものが混じっています。それは全部でいくつありますか。

ハート型のつり革、球磨工業高校建築科3年生製作と表示されたゴミ箱、運転席後方に電光表示板、和式水洗トイレ、球磨焼酎などが陳列された飾り棚、冷水機、がまんちょくん（くま川鉄道のマスコット）のぬいぐるみ

①1 ②2 ③3 ④4

7 くま川鉄道のKT-501～505の車両外側面には、右の写真に示すように、その車両に名付けられた季節名の漢字が枠中に描いてあります。

KT-501の「冬」の漢字を囲む枠の形は何ですか。

①丸 ②ひし形 ③五角形 ④六角形



8 人吉温泉駅から湯前駅に向かうと、人吉球磨日本遺産の一つである十島菅原神社（学問の神様）が車窓右手側に一瞬見えます。何駅を出て通称「森のトンネル」を抜けたところに見えますか。

①相良藩願成寺駅 ②川村駅 ③肥後西村駅 ④一武駅

9 くま川鉄道に関する次の記述のうち正しいものはいくつありますか。

- ☐ア社員が着用する夏制服は、2017年度（平成29年度）から人吉市のシャツメーカーHI TOYOSHIが製作した新作に変更された。
- ☐イ人吉市へのふるさと納税10,000円以上の寄付で貰えるお礼の品の中に、くま川鉄道のマスコットであるガマンチョ君のぬいぐるみがある。
- ☐ウ2017年（平成29年）2月9日（ふくふく＝幸せの日付）におかどめ幸福駅に就任したとされるふくろう駅長は、「不苦労」と表記し「苦労を打ち消すことで「幸せ」の験をかついでいた。
- ☐エくま川鉄道は6市町村を通過します。市町村役場と最寄り駅までの直線距離が一番短いのはあさぎり町役場とあさぎり駅である。

①1 ②2 ③3 ④4

10 この年の3月31日、人吉駅裏手への通路（跨線橋）の建設がなされ、球磨工業高校生の通学の利便性が格段に向上しました。

平成何年のことだったでしょうか。

①平成元年 ②平成3年 ③平成5年 ④平成7年

いかがでしたか？

それでは、「勝手にくま鉄検定」第8セット目の正解と解説です。

1 ②45分

最速が8Dの42分、最遅が2Dの49分、平均が45分です。

ちなみに人吉駅前から湯前駅前まで産交バスで向かうと、およそ1時間（時刻表では51分～59分）かかるようです。

2 ①あさぎり駅

ポッポー館は、写真のように蒸気機関車（SL）を模した建物で、くま川鉄道あさぎり駅舎、JAくま免田支所、図書コーナー、多目的ホールが同居する全国的にも珍しい複合施設です。このユニークな施設では展示やイベントなども開催されています。冬にはイルミネー



ションが飾られ、訪れる人の目を魅了しています。煙突の部分を模したと思われる展望台（4階相当）には、74段の階段で登ることができます。

この設問では離合もテーマです。あさぎり駅では、午前中に4回、午後に6回の合計1日に10回行き違いがあります。この離合をよく注意して観察していると面白いことに気づくはずです。

6時45分頃の最初の行き違いである2Dと3Dの場合は、下り列車が到着→上り列車が到着→同時に出発となります。次の7時50分頃の4Dと5Dの行き違いでは、上り列車が到着→下り列車が到着→上り列車が出発→下り列車が出発の順になります。それ以降の行き違いは、上り列車が到着→下り列車が到着→両列車が（ほぼ）同時に発車の順番で行われています。

3 ③一武駅

写真①は一武駅のホームです。

「なまこ壁」とは、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、富の象徴である蔵などでよく見受ける黒と白の幾何学模様というピンとくる方も多いことでしょう。

白と黒のコントラストが、どこかモダンな感覚を醸し出しますが、日本伝統の壁塗りの様式の一つで伝統工芸に属する工法になります。

戦国時代に兵法「タイ捨流」を創始し、九州一円に広めた兵法家の丸目蔵人（まるめくらんど）が晩年を一武駅が所在する錦町で過ごしたらしく、近くにはお墓があるほか、剣豪丸目蔵人を顕彰する少年剣道大会も錦町で行われています。



なまこ壁と一武駅の関係は、駅的设计者に尋ねるしかありませんが、想像をたくましくするに、丸目蔵人が仕えた相良藩のお城（人吉城）をイメージしたものと思われます。（そういう目で人吉城を見ていたら、なまこ壁がありました！：写真②）

ちなみに、剣豪丸目蔵人を模した「錦太郎（きんたろう）」が錦町のゆるキャラになります。頭には同町の特産物である梨、桃、茶の葉を乗せ、九州山地と球磨川を髪の毛で表現しています。

2019年（令和元年）9月28日～29日の「くまてつまつり」では、剣道着と竹刀を装着した姿で車内に登場し、ちびっ子にまわりつかれていました。（写真③）



4 ①川村駅

川村駅は、相良村唯一の駅になりますが、人吉球磨にそれなりの期間住んで、管内10市町村の町境等も含めた位置関係が頭に入っていると、「本当に相良村にくま川鉄道の駅があるの？」という素朴な疑問がわき出てくるほど意外な事実かもしれません。

10市町村の町境を描いた地図を見るとその謎も解けます。三角形を逆さまに置いた形の相良村は、下の頂点が南に垂れ込む形状をしており、その頂点付近を赤線で示したように、くま川鉄道が走っているのです。



5 ①2

川村駅と多良木駅の2つの駅になります。

まず、川村駅ですが、ホームに川村駅から1キロほど離れた場所にある十島菅原神社（7の解説を参照）の出張（？）拝殿（写真①）が設置されています。神社側の発案で地元の球磨工業高校伝統建築専攻科に制作が依頼され、寄贈されたものです。なお、十島菅原神社は、祭神が菅原道真公であることに加え、神社名が「十島（としま）」＝「とおします」であることから受験生に人気がある神社なんだそうです。

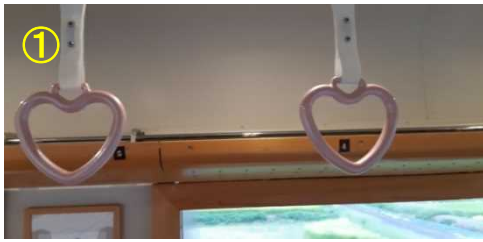
一方、多良木駅のホームにあるえびす像（写真②）ですが、多良木町の街の中心地に、毎年10月に大祭が催される恵比須神社（商売の神様）があり、そこから多良木駅にやってきた出張神様（駅えびす）といった位置づけで設置されているものと思われます。



6 ④4

ハート型のつり革は、かつてKT501（茶色の冬号）に2つ並んで（写真①）設置されていて貴重な存在でしたが、車両改造でこれも含めて全て丸型に変更され、なくなってしまいました。水洗トイレは5車両とも和式ではなくてすべて洋式（写真②）です。冷水機は設置されていませんし、がまんちゃん（くま川鉄道のマスコット）のぬいぐるみ也没有。

写真③は、設問中にある球磨工業高校生が製作したゴミ箱です。



7 ③五角形

冬→雪→結晶の形→六角形の類推で考えると間違えてしまいます。

くま川鉄道のゲストハウス「くまたび」には、この缶バッジ（右写真：200円）も販売しており、大事にしている概念だと思われます。参考までに全ての車両の写真を示します。



KT-503



KT-504



KT-502



KT-501



KT-505



8 ①相良藩願成寺駅

十島菅原神社（写真①）は、1589年（天正17年）に第20代相良長毎（ながつね）により建てられ、菅原道真を祭神としており、領主である相良氏や民衆から篤い崇敬を集めました。池の上に立つ本殿は、16世紀の建築様式や地域的特色が色濃く表れており、大変貴重で、2013年（平成6年）に国の重要文化財に指定されています。勿論、日本遺産（相良700年が生んだ保守と進取の文化～日本でもっとも豊かな隠れ里一人吉球磨～）の41ある構成文化財の1つでもあります。スピリチュアルな雰囲気漂う杉木立の境内の近くには、池に浮かんだ10個の人工の島があり、これが神社名の由来になっています。願い事を「とおしま（十島）す」ということで、受験生に人気があるんだそうです。

この神社のすぐ近くに公民館と並んで建っているのが、聖観音を本尊とする相良三十三観音巡りの14番札所十島観音です。

なお、設問中にある「森のトンネル」とは、写真②のように木々のトンネルを抜けていく感じを受けることから、くま川鉄道が勝手にそのように名付けているものと思われます。



9 ①1

正しいものは、**ア**だけです。間違えている選択肢を順番に確認します。

イは、お礼の品が誤りです。ふるさと納税寄附金額10,000円以上の寄付でもらえるくま川鉄道関連のお礼の品として、田園シンフォニーオリジナルグッズの詰め合わせセット（定規、キーホルダ、三角鉛筆、B6ノート、クリアファイル、缶バッジ）がもらえます。缶バッジはあの水戸岡鋭治氏のデザインです。自治体にとってはお礼の品を通じて、地域の名産品や産業を全国の人に知ってもらえる貴重な機会にもなっています。

ウのふくろう駅長ですが、「福来朗」と表記します。平成29年2月9日（ふくふく）幸せな日に就任したことでなっていました。折からの鳥インフルエンザのまん延で梟の正式デビューは遅れると報じられました。その後、おかどめ幸福駅のホームには、**写真①**にあるように木彫り？の像が、マスコットのガマンチョ君と並んで置いてあるのは見受けられますが、鳥かごに入った梟はついに見ることはありませんでした。一体どうなったのでしょうか？



そして何と、令和2年2月28日には「くまモン駅長」が誕生したようで、FRP（繊維強化プラスチック）製の立派なモニュメントが駅舎入口右側に建てられて、除幕式が 있었습니다。だから



「福来朗」駅長の去就がどうなったのか余計に心配されます。（**写真②**）

この疑問等の答えを、第2セット目の5の解説にまとめています。

エで問われている各市町村町役場とその最寄り駅ならびにその間のおおよその直線距離は次のとおりです。

【人吉市役所～人吉温泉駅（下薩摩町の仮本庁舎）】：1.34km、【相良村役場～川村駅】：3.12km、【錦町役場～一武駅】：1.49km、

【あさぎり町役場～あさぎり駅】：0.59 km、【多良木町役場～多良木駅】：0.25 km、【湯前町役場～湯前駅】：0.62 km

従って、一番短いのは多良木町役場と多良木駅間が正しいです。

ちなみに、人吉温泉駅から湯前駅に向かっていくと、あさぎり町役場（写真②）は、あさぎり駅を出てすぐ車窓左側に見えてきます。多良木町役場（写真③）は、多良木駅のホームの先に見えています。



10 ②平成3年

球磨工業高校の生徒たちは、写真に見える跨線橋と併せて、通称「ひよどり越え（人吉駅裏から史蹟大村横穴群の中を通る急な坂道の愛称）」のおかげで、人吉温泉駅から5～7分という極めて短時間で登下校することができるようになりました。しかし、この恩恵を受けるようになってまだ30年経っていないことになります。



なお、標高差約40mのひよどり越え（球磨工生が登下校で使っている急な坂の通称）に、地元の篤志家の手により、全長153.44m・全365段・巾1mの階段が整備されたことが1966年（昭和41年）の人吉新聞に載っていました。